

大学による組織的国際協力活動の事例

帯広畜産大学の場合

理事・副学長 長澤秀行

沿革

昭和16年 帯広高等獣医学校

昭和24年 帯広畜産大学

昭和42年 大学院修士課程設置

平成16年 国立大学法人帯広畜産大学

平成18年 大学院博士課程設置

国立大学法人帯広畜産大学中期目標

基本的な目標

国立大学法人帯広畜産大学は
「実践的教育の充実」
「世界をリードする研究者の養成」
「地域社会並びに国際社会との連携」
を理念とする世界最高水準の獣医・農
畜産系大学を目指す。

帯広畜産大学の中期目標

畜産衛生学分野の専門店として
特色ある大学づくり

動植物性蛋白質資源の生産向上と
食の安全性確保

獣医・農畜産分野の人材育成による社
学連携

教育研究組織

大学院

畜産学研究科(修士課程・博士課程)

岐阜大学連合獣医学研究科

岩手大学連合農学研究科

畜産学部

獣医学科

家畜病院

畜産科学科

別科

草地畜産専修

教育研究支援組織

図書館

保健管理センター

情報処理センター

全国共同利用施設

原虫病研究センター

学内共同教育研究施設

大動物特殊疾病研究センター

地域共同研究センター

畜産フィールド科学センター

学生数および教職員数

平成18年5月1日現在

学生数

畜産学部	1,171名
畜産学研究科	126名
別科	44名

留学生数(研究生、聴講生を含む)

18カ国から	57名
--------	-----

教職員数

役員	6名
教員	136名
事務・技術職員	97名

平成18年度国立大学法人運営費交付金

	国立大学法人	金額
1	東京大	929億
2	京都大	622億
3	東北大	540億
4	九州大	504億
5	大阪大	503億
6	筑波大	442億
7	北海道大	429億
8	名古屋大	358億
9	広島大	280億
10	神戸大	244億

⋮

78	室蘭工業大	30億
79	帯広畜産大	28億
80	北見工業大	26億
81	筑波技術大	27億
82	奈良教育大	27億
83	政策研究大学院大	24億
84	大阪外語大	22億
85	総合研究大学院大	19億
86	鹿屋体育大	15億
87	小樽商科大	14億

外部資金比率のトップ10

(平成17年度国立大学の財務より)

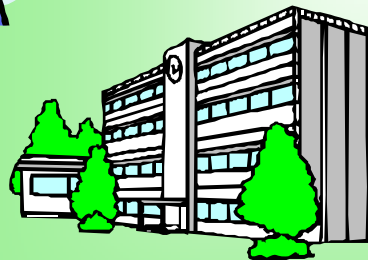
1	奈良先端科学技術大学	31.5%
2	東京工業大学	29.1%
3	東京大学	28.7%
4	京都大学	24.3%
5	大阪大学	23.2%
6	東京農工大学	22.7%
7	帯広畜産大学	19.8%
8	東北大学	19.2%
9	長岡科学技術大学	18.6%
10	名古屋工業大学	17.2%

大学の役割

教育

研究

地域貢献



帯広畜産大学

大学の役割

社会が求める人材

社会に通用する人材

人材育成

研究



世界水準・独創的

現場を理解した研究

帯広畜産大学

特色ある大学づくり



教育研究環境



日本の食料倉庫である十勝平野
に位置する。

原虫病研究センター

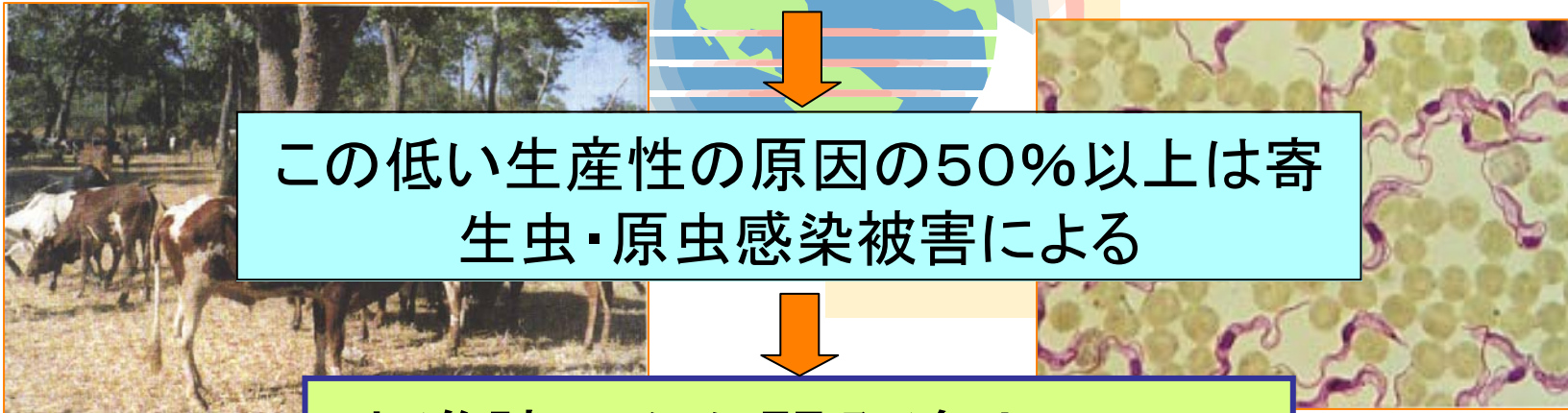
獣医・農学分野で国内唯一

世界の家畜生産性の現状と課題



世界の乳肉家畜飼育頭数の70%以上は、アジア、アフリカ、南米などの開発途上国で飼育されている。

その生産量は先進諸国の30%以下



この低い生産性の原因の50%以上は寄生虫・原虫感染被害による

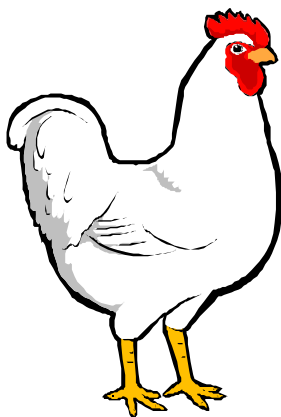
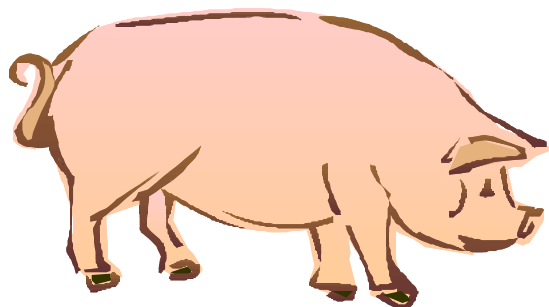
先進諸国から開発途上国への原虫病対策学術援助が必須

21世紀COEプログラム

動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保、
特に原虫病研究を中心として



食の安全性確保



食料の安定供給

大動物特殊疾病研究センター



家畜衛生の向上と食の安全性の確保